

2012年度受託研究概要報告

再現した松右衛門帆を用いて、松右衛門ゆかりの港をイメージした 新縞柄のデザインと商品の開発

研究メンバー

野口正孝 デザイン学部ビジュアルデザイン学科教授

委託者

高砂ブランド協会

研究概要

2010年度からの受託研究で、江戸時代に播州高砂出身の船頭 工楽松右衛門が開発し、日本の近代海運業の発達に寄与した松右衛門帆を再現し、縞柄のデザインを行い、トートバッグ等の袋物の商品開発を行った。本年度は、新柄のデザインを行い、更なる商品開発を行う。

研究成果

2010年度の受託研究で復元した松右衛門帆に、白砂青松とうたわれた高砂の砂浜「sable」、松林「pinewood」、播磨灘の海と空「sea-sky」、播磨灘に沈む夕日「sunset」をイメージしたマルチカラーの縞柄をデザインし、白、黒の帆布も加えて商品開発を行った。

本年度は、更に工楽松右衛門が港の造成に関わった「鞆の浦」「函館」「択捉」「神戸」をイメージして新たな縞柄をデザインし、トートバッグ、ショルダーバッグ等の新規の商品開発を行った。

開発した製品は、高砂ブランド協会が山陽電鉄高砂駅前に開設している「観光案内所ちり」やWebsite「松右衛門帆」(<http://matsue-mon-ho.com/>)、山陽百貨店等で販売を行っている。

高砂市は、同市出身の偉人「工楽松右衛門」や日本で初めての近代的帆布である「松右衛門帆」という地域資源の活用による地域の活性化、および地域産業を興す試みを開始した。



写真1 択捉柄のトートバッグ



写真2 黒帆布のトートバッグ



写真3 「神戸」柄のバケツバッグ